

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:78.

男性特有疾患の手術を意識下で受ける患者の思い
—手術時の各場面での羞恥心に焦点をあてて—

早勢 徹、本間 敦、藤原 由紀恵、山近真実、平田 哲

第 34 回日本手術医学会総会 演題登録

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション 早勢 徹

本間 敦 藤原 由紀恵

山近真実 平田哲

【タイトル】

男性特有疾患の手術を意識下で受ける患者の思い - 手術時の各場面での羞恥心に焦点をあてて -

【目的】近年、医療の高度化や高齢化により男性泌尿器科疾患の意識下手術は増加している。手術室では陰部の露出を余儀なくされる処置や治療が行われ、患者は羞恥心を抱いていると予測できる。手術室での各場面での思いを明らかにすることで、より患者の思いに沿った看護介入を検討できるのではないかと考え今回、男性特有疾患手術を意識下で受ける患者の各場面の思いを明らかにした。【方法】男性特有疾患の手術を意識下で受ける患者 10 名に半構成的面接を実施。手術室で羞恥心を感じる事が予測された場面での情報を逐語録におこし、分析した。なお、この研究は旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施した。【結果・考察】身体の露出を余儀なくされ羞恥心を抱くと予測した「脊椎麻酔時」「手術体位固定時」「手術時」「膀胱留置カテーテル挿入時」の各場面で、羞恥心を抱いた場面は「手術体位固定時」のみであった。「手術体位固定時」は脊椎麻酔後のため下半身の感覚の鈍麻を自覚した状態で行われ、患者自身が身体的苦痛がない事を認識出来る。したがって精神的な苦痛である羞恥心が思いとして表出しと考える。
